

## 語彙が増えて自己表現力がつくと情緒が安定する

漢字力がついて語彙が増えると、自分を表現する力がつきますし、頭の中で考えるための言語(内言語)も豊富になるので思考力も高まります。自己表現がスムーズにできれば、情緒が安定し、感性や情操も豊かに育ちます。

「漢字教育を始めると、子供たちの情緒が安定し、とても落ち着いた子になります。それから、何にでも意欲をもって挑戦しようとする姿勢が顕著になって驚かされます」という話をよく聞きますが、その理由の一つには、こうした漢字力によって導かれる“自己表現の実現”があると考えられます。

私は保育園や幼稚園での漢字教育を推進してきましたが、そうした園の先生方からも、「漢字教育を始めて一カ月ぐらいしたら、園児たちの<sup>か</sup>噛みつき癖がなくなりました」としばしば報告をもらいます。幼い子供たちは何かあると、すぐに噛み付くような行動に出ることが多いのですが、それがなくなるというのです。子供にしてみれば、自分の体のうちに湧きあがった思いのおさめどころがわからなくて、噛み付

きという行動で表現しているのでしょう。思いを言葉(内言語)に置き換えることができれば、心が安定し落ち着いていられるのは自然なことです。

昨今、大きな問題になっている「学級崩壊」や「子供の切れやすさ」「非行」などについても、原因はいろいろあるでしょうが、その根源的な原因の一つとしても、この“自己表現不能”な状況を指摘することができます。

そうです、自己表現しようにも、それを可能にする語彙をもたないことが、心の内に行き場のないエネルギーを蓄<sup>た</sup>めることになり、それが暴発するのです。このように考えるのは、当たらずといえども遠からずではないでしょうか。

子供の情緒を安定させ、明るく元気に育てるためにも、今こそ、漢字教育の果たす役割の大きさをもっと認識しなければ、ますます事態は悪化の一途をたどることになると心配されます。